

白井市長選結果について

北総線の運賃値下げを実現する会 会長 山下兼男

5月22日に投開票された白井市長選挙は、北総線運賃値下げへの対応の正しいあり方が最大の争点でした。「4.6%の値下げ」と引き換えに自治体から北総鉄道への補助金投入を推進、容認する2候補と、市民運動の熱い期待を一身に担った柴田圭子さんとの間で闘われました。

補助金投入の専決処分に端を発した混乱などで市長不信任に追い込まれた横山候補は、短絡的に「再値上げ」の不安をあおって、補助金投入の継続を合理化しました。他方の伊沢候補も補助金投入継続を容認しつつ、「市政混乱の収拾」などを主張しました。

これに対して、多くの市民からのつよい要請に応え、直前の市議選でのトップ当選の座をなげうってまで市長選に挑戦した柴田候補は、「補助金の投入ではなく、京成電鉄からの正当な線路使用料等の収受による北総線の大幅値下げの実現を」と正論を毅然と訴えて闘いました。この訴えは、マスコミ報道ともあいまって、北総線問題の本質、補助金投入の不合理性を市民に広く知らせてだけでなく、関係自治体と住民への大きな啓発ともなりました。

選挙結果は、残念ながら柴田圭子さんの当選とはなりませんでした。自民・公明両党の組織基盤に乗り、「対立から対話」「5年後は公費負担をなくす」などと、「安定」を求める市民感情に乗じた伊沢候補が当選しました。しかし、北総線問題の現状に毅然とした改革方針を示した柴田候補に寄せられた支持の重み、当選者に1,164票差まで迫る互角の信任が寄せられたことは、今後の北総線運賃値下げ運動の展開にきわめて大きな意味を持つものです。

当選した伊沢新市長が、「5年後の税金投入の見直し」「公金投入を伴わない更なる値下げの実現」を公約せざるを得なかったのは、柴田候補を先頭にしたこれまでの沿線市民のたたかひの成果であり、私たちはこれに確信をもつとともに今後の白井市政の動向をきびしく監視していくものです。

私たち「北実会」の会員は、他の関係団体の仲間とともに、この選挙戦に全力をあげて参加(個人の資格で)しました。

きびしい決断をしてこのたたかひの先頭に立った柴田圭子さんに敬意と感謝の意を表するとともに、柴田勝利をめざして日夜をわかたず諸活動に参加された皆さんに、厚くお礼申し上げます。

私たちは今回の選挙の意義を再確認しつつ、この活動の中でつくりあげられた絆をこれからさらに強めて、北総線運賃の大幅値下げの実現へ向けて活動する決意を表明し、白井市長選結果を受けてのご挨拶とさせていただきます。